

第 52 回 IRIDeS 金曜フォーラム

日時：平成 29 年 2 月 23 日（金）16 時 30 分～18 時 30 分

会場：東北大学災害科学国際研究所 1 階 多目的ホール（仙台市青葉区荒巻字青葉 468-1）

テーマ：「南海トラフ地震の予測可能性と社会対応」

概要：南海トラフ域など、大規模地震の発生の懸念が高まった際に、どのような情報の出し方、どのような対応の取り方をすると被害軽減につなげることができるのかを総合的な視点から検討するため、この約一年間、所内研究者を中心とした勉強会を行ってきました。その概要を紹介するとともに、広く、意見交換の機会をもちたいと思います。皆様の奮ってのご参加、お待ちしております。

1. 16:30～16:55（発表 25 分）

タイトル：南海トラフ地震予測対応勉強会の背景と概要

話題提供者：福島 洋（災害理学研究部門 海底地殻変動研究分野）

発表要旨

西南日本では南海トラフ沿いの大地震による被害が繰り返し発生しており、現在も大被害をもたらす地震の発生が懸念されています。一方、地震学では、観測技術の進歩や事例の蓄積等があり、非常に不確実ながらも地震発生確率の相対的な変化を評価できるようになってきました。不確実な予測情報は防災対策には使いづらいものですが、被害の甚大さを考えると、南海トラフの大地震の対策にそのような情報の活用を検討することは有意義です。本講演では、このような問題意識のもとに始まった勉強会の概要を報告するとともに、背景となる地震発生予測に関する知見の現状を紹介します。

2. 16:55～17:20（発表 25 分）

タイトル：南海トラフ地震発生予測時の企業・組織の行動と可能な事前準備

話題提供者：丸谷 浩明（人間・社会対応研究部門 防災社会システム研究分野）

発表要旨

南海トラフ地震は企業や公的組織としても対応が容易ではないが、一定の発生予測ができるなら、実施できる備えの幅は広がる。政府の検討では、例えば南海トラフ地震の発生領域の一部が動いたが他は動かなかった場合、続いて地震が発生する可能性が相当高まると推測されている。そこで、このようなあいまいであっても南海トラフ地震の発生の予測がなされた場合における企業・組織の行動と可能な事前準備について、予測し提案を行う。

3. 17:20～17:45（発表 25 分）

タイトル：命のリスクコミュニケーション

話題提供者：江川 新一（災害医学研究部門 災害医療国際協力学分野）

発表要旨

病気も災害もリスクを少なくすることによって予防や被害の軽減ができます。しかし、いつ本当に重大な危機が訪れるかは予測できませんし、ある治療法や対策が必ずしも有効ではないという不確実性を共通に持っています。災害時に『最初』で、『正しく』、『信用』されなければ、かえって混乱を引き起こすこととなります。病気も災害もリスクコミュニケーションを計画時と災害初期に行うことで、対応と復旧を効果的にすることができるのです。

4. 17:45～18:10 (発表 25 分)

タイトル : メディアを通じた学術からの災害情報発信 : 社会とのよりよいコミュニケーションに向けて

話題提供者 : 中鉢 奈津子 (広報室)・久利 美和 (リーディング大学院)

発表要旨

災害情報は、市民の生命・財産の安全に直結するため、社会の関心も高く、専門家は社会に伝えていかねばならない。しかしながら、現状は市民にとっては馴染みのない用語やわかりにくい解説も多い。学術機関は、災害情報、特に不確実な災害情報を、どのように効果的に社会に伝え、受け手とコミュニケーションを図っていくことができるのか。本発表は、平時および災害発生時に学術との連携が不可欠の、メディアを通じた情報発信に焦点を当てる。第一線で災害報道に携わってきたジャーナリストらから得られた、効果的な情報発信に関する経験則や、学術と社会の情報共有に際しての課題を整理する。

5. 18:10～18:30 質疑／総合討論 (20 分)

司会・進行 : 奥村 誠 (人間・社会対応研究部門 被災地支援研究分野)